# 原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和5年8月23日（水）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎　5階記者会見室
- 対応：山中委員長

＜質疑応答＞

○司会　それでは、定刻になりましたので、ただいまから8月23日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

ヨシノさん。

○記者　テレビ朝日ヨシノです。よろしくおねがいします。

福島第一原子力発電所の処理水について、天候等順調ならば明日海洋放出が始まるわけなんですけれども、規制委員会は初代田中委員長が2013年9月ですね。当時の安倍総理に対して希釈海洋法放出しか方法がないことを提言したわけなんですけども一貫して同じ主張を歴代の委員会委員長は繰り返してきましたけれども、そのいたずらな議論が政府の方で続いてもう10年たってしまったと、このことについてのご所感をいただけないでしょうか。

○山中委員長　規制委員会はご指摘のとおり従来よりALPS（多核種除去設備）処理水の海洋放出が基準に基づいて行われるものであれば、人や環境に影響をほどんど及ぼすものではないと主張してまいりましたし、私も従来より同じ考えを述べさせていただきました。ようやくここに来て処理水の放出が決定されたわけでございますけれども、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた重要な一つのステップが進んだという認識でございます。

○記者　その国のほうでも政府のほうでもですね。有識者会合が行われてきたわけなんですけど、やはり時間がかかりすぎたのではなかったかと、私は思っているのですけども委員長はその辺はどのようにお考えでしょうか。

○山中委員長　従来より科学的技術的に見て処理水の海洋放出というものが最も現実的な手段であり、人や環境に影響を及ぼすものではないと、安全上、ほとんど影響を及ぼすものではないと、私ども原子力規制委員会は主張してまいりましたけれども、やはりこの問題、社会的な影響の大きさを考えますと、やはり時間をかけて、様々な関係者に理解を得る必要があったのかなというふうに想像はいたします。

○記者　多分、ちなみに明日なのです。ちょっと最後にしますけども、明日、処理水の放出は恐らく午前中ぐらいに判断されて、午後にも放出ということになるのですけども、委員長はどのようにそれを御覧になるか。その時間帯は何をされているか、もしあり

ましたら教えていただけますでしょうか。

○山中委員長　はい。現地の検査官が放出の開始の様子を見る予定になっております。当然、逐次、その様子については検査官から報告があろうかと思いますので、それは私、東京にて待ちたいというふうに思っております。

○記者　ありがとうございました。

○司会　ほかに御質問いかがでしょうか。

はい、タシマさん。

○記者　共同通信のタシマです。よろしくお願いいたします。

私も1F（福島第一原子力発電所）の処理水の海洋放出についてお伺いいたします。昨日、東電が会見をされて、今年度の放出計画について具体的に数値を示されましたけれども、この計画については委員長、例えば、妥当なものであるとか、どういった評価をされますでしょうか。

○山中委員長　現在、処理水130万立米、福島第一原子力発電所のサイトに貯蔵されております。そのうち、本年度末までに4万立米放出、約3万立米強ですか、4万立米弱放出されるという予定であるというふうに聞いております。慎重に放出を開始されるというふうに、感想としては持っております。

○記者　放出のペースとして、汚染水や処理水がこれ以上増えなければ、これで30年、40年で流せるものではありますけれども、日々汚染水が増えているという状況で、多分、抜本的な汚染水対策というものが必要になりますけれども、東電にはどのような対応を求められますでしょうか。

○山中委員長　汚染水の発生につきましては、当初500立米パーデイ($m^3$/day)で、1日当たり500立米以上、汚染水が発生していたわけですけれども、現在では1日当たり100立米以下に抑えられているというふうに報告を受けております。ここ5年でやはり減らしていっていただく必要はあろうかと思いますけれども、目標としては、50から70立米、1日当たりの汚染水の発生にとどめていくという、今、計画でおります。これを、なかなかゼロにするというのは、建屋の問題、様々ございますので、全体のリスクを見ながら規制委員会としても判断をしていきたいというふうに思いますし、取組については、監視検討チーム（特定原子力施設監視・評価検討会）で議論をしていただくことになろうかと思います。

○記者　減らすための具体的なアイデアなど、もしお持ちであればお聞かせください。

○山中委員長　恐らく、その様々な取組を考えられると思うのですけれども、雨水ですとか、あるいは地下水の建屋への流入というのを防いでいく手段というのを考えていく必要があろうかなというふうに思っています。

これは、どの手段が最もリスクが少なく汚染水の発生を少なくできるかということを、十分技術的には検討する必要があろうかなというふうに思います。

○記者　分かりました。すみません、ちょっと話が戻って、先ほどテレビ朝日のヨシノさんの御質問で、長期間で、放出まで、議論が始まってから放出までが10年かかったと。でも、委員長が社会的な影響の大きさを考えて、関係者の理解を得る必要があったというふうに、時間がかかった要因について分析されていらっしゃいましたけれども、10年かかっても、まだ漁業者の方たちは反対の立場を貫いていて、一般社会でも反対の立場の方がいらっしゃると。そういった、まだ、それでも理解というものが十分得られなかったという、この状況についてはどのように見ていらっしゃいますか。

○山中委員長　国内外、様々な御意見、あるいは感情をお持ちの方がおられるということは十分承知をしております。

原子力規制委員会としては、科学的技術的な判断をして、処理水の海洋放出というのは現実的な手段であると、実現可能な手段であるということは従来から申し上げていたところでございますけれども、今後、放出が始まれば、実施計画の検査を通じて、計画どおり放出が進められているのか、あるいは、精密なモニタリング等を通じて国内外に正確な情報を発信するというのが私の務めだというふうに認識しております。

○記者　国内外への情報発信という意味では、近隣諸国との規制機関との連携ですとか、IAEA（国際原子力機関）ももちろんそうですけれども、そういった海外との連携などについては、どのようにお考えでいらっしゃいますか。

○山中委員長　まず海外への情報発信、あるいは連携については、IAEAを基軸としたような情報発信、あるいは我々の規制対応についてレビューをいただくということが、まずは第一になろうかと思いますけれども、近隣の規制機関との情報交換については、御質問等があれば速やかにお答えをする、あるいは、年に一度ではございますけれども、詳細な議論が規制機関同士できる場、中国、韓国と持っておりますので、そういった場を通じて丁寧に説明をしてまいりたいというふうに思っています。

○記者　分かりました。ありがとうございます。

○司会　ほかに御質問いかがでしょうか。

はい、ハシグチさん。

○記者　NHKのハシグチと申します。よろしくお願いします。

先ほど、最初の質問の、処理水の放出の開始に当たって、廃炉に当たって重要なステップが進んだというふうに発言されていましたけど、具体的に、どういうふうなことが進むというふうに期待されていますでしょうか。

○山中委員長　やはり、処理水の占めておりますタンクの敷地の面積というのは極めて大きなものでございますし、そのスペースを空けることによって、私が常々主張しております廃棄物の分析・分類・処理・処分、あるいは安定な保管ということが可能になってくるというふうに思います。やはり、この処理水の海洋放出というのが、こういった福島第一原子力発電所の廃炉の重要なステップの一つであるという認識でござい

ます。

○記者　ありがとうございます。

一方で、これから放出が始まっても、当面の間は、タンクの基数自体の減少は限定的に留まるのではないかという見方もあるのですけれど、その辺りについてはどう考えていますでしょうか。

○山中委員長　もちろん、開始当初は慎重に放出をされるということでございますけれども、実施計画に基づいた放出が始まれば、一定程度、そのスペースが確実に開放されていくことになろうかと思いますので、様々な廃棄物の安定保管に向けたスペースの確保という意味では重要なステップであるというふうに考えております。

○記者　ありがとうございます。

あと、先ほど言及もありましたけれども、放出開始後、実際に規制委員会としてはどういうふうに取り組んでいくかを、もう少し、ちょっと詳細にお願いいたします。

○山中委員長　日々の検査の中では、やはり実施計画に沿って放出がなされているかどうかということについて、実施計画検査、保安検査ですとか、あるいは定期検査の中で確認をしていくということになろうかと思います。また、海域のモニタリングにつきましては、私ども規制委員会は精密なトリチウム分析ということを担当することになっておりますので、他機関とも協力しながら、モニタリングについてはきっちりと情報発信をしていきたいというふうに思っております。

○記者　放出、実際には、数十年にわたって続くとされていますけれども、その点、運用するに当たって、どういうところに課題があって、どういうところを監視していきたいというふうになりますでしょうか。

○山中委員長　当然、長期間にわたる施設の維持管理ということは必要になってくるかと思いますので、非常に施設としてはシンプルな、単純な施設ではございますけれども、ポンプあるいはバルブ等の維持管理については、検査官に慎重に検査をしていってもらいたいというふうに思っております。

○記者　また、一度トラブルが起きると不信感にもつながると思うのですけれども、東京電力のほうで慎重にするということですが、東京電力に対して求めたいこととかはありますでしょうか。

○山中委員長　これは東京電力にも従来から指導してきているところでございますけれども、放出前あるいは放出後、より緊張感を持って慎重に作業に当たっていただきたいというふうに考えております。

○記者　ありがとうございました。

○司会　ほかに御質問いかがでしょうか。

はい、サイトウさん。

○記者　新潟日報のサイトウと申します。

すみません、話題は変わって、東京電力の柏崎刈羽原発についてお伺いしたいと思います。まず追加検査について、8月2日に非公開の臨時会合で現状について報告があったかと思いますけども、東電の対応状況について、委員長御自身はどのようにお考えになっているでしょうか。

○山中委員長　8月2日に臨時会議がございまして、東電の対応状況というのを当日聞きました。まだ四つの項目が残っている状況でございます。その時点では、まだ追加検査を開始してほしいという依頼は来ておりませんでしたけれども、四つのうちの一つ、変更管理の運用改善については完了したということを東京電力から連絡がございましたので、その点について追加検査開始ということになろうかと思います。

○記者　その東京電力からの報告というのは、いつ、どのような形であったのでしょうか。

○山中委員長　8月21日に、規制庁のほうに連絡がございました。完了したという一文の連絡でございます。

○記者　それは紙ベースとか、何か報告書だとか、どういった形なのでしょうか。

○山中委員長　報告書ではないと思います。一文、完了いたしましたということでございました。

○記者　今後の委員会というか、規制庁としての対応については、今後その変更管理について、現地に行って改めて確認されるというような認識でよろしいでしょうか。

○山中委員長　変更管理については、追加検査の中で、きちんとそれができているかどうかということを、現地あるいは本社等で検査をすることになろうかと思います。また、委員会では臨時会で報告を受けて、必要があれば公開の委員会で報告をさせていただきます。

○記者　その全体的なスケジュール感、ほか、まだ三つについてはそういった報告はないと理解しているのですけども、いつ頃までにその追加検査は終わるとか、その全体的なスケジュール感について、今お考えがあればお願いします。

○山中委員長　8月2日の時点でまだ、今後のスケジュール感について検査官から特段の報告はございませんでしたので、委員会としてもまだ、いついつ完了ということは申し上げる段階にないかなというふうに思っております。

○記者　すみません、あと、今度は適格性の再確認についてなのですけども、再確認の方法を決めてから、7月に決めてから1か月たちましたけども、現状、検査の起点になる公開会合の日程調整を進めているようですけども、こちらについても、その検査だとか会合だとか、今後の見通しがあれば教えてください。

○山中委員長　まず、これは以前にもお答えをしているかと思いますけれども、東京電力から、安全に対する取組についての報告、これは公開の会合で報告を受けて、その報告に基づいて追加検査の項目、あるいは、どこに行って何を検査するか、これを検討して開始をするということになろうかと思います。今日、委員会の中でも、追加検査のいわゆる項目の中には挙がっておりましたけれども、いつ公開の会合で東京電力か

ら報告を受けるかということについては、まだ連絡がございませんので、その会合次第というところかと思います。

○記者　すみません、最後に1点、またちょっと話題は変わるのですけども、柏崎刈羽原発、6月に周辺監視区域に釣り人が侵入するという事案があったと先日、東京電力のほうから発表がありました。有刺鉄線が切れていたということが原因だったようなのですけども、これについて委員長はどのように受け止めというか御認識があるのか、お願いします。

○山中委員長　周辺監視区域の柵の損傷、これは決してあってはいけないことだと思いますし、東京電力自身が気がついて、きちんと対応をしたという点については、特段大きな問題ではないかなというふうに思いますけれども、こういった問題が起きないように、きちんと監視を進めていっていただきたいというふうに思っています。

○司会　ほかに御質問いかがでしょうか。

では、後ろの列の方、お願いします。

○記者　ビデオニュースのハセガワと申します。

福島第一原発に戻りますが、今回、海洋放出という、環境負荷や風評被害が大きいとされる方法を、あえて政府や東電が選んで、それに対して原子力規制委員会はゴーサインを出したという形になるかと思いますが、今回、海洋放出に代わる様々な方法が多方面から提案されている中で、海洋放出がベストな方法ではないと考える場合、原子力規制委員会はそれを止める、海洋放出をストップする権限というのはあるのでしょうか。つまり、放出の設備の安全基準を満たしていたとしても、もし、ほかによりよい方法があるのだったら、それを例えば提案するなり、そういった権限は、原子力規制委員会にはあるのでしょうか。

○山中委員長　御質問といいますか、コメントといいますか、従来より原子力規制委員会は、処理水の海洋への放出というのは、科学的あるいは技術的に見て実現可能な方法であるということを提案させていただいていました。この点については、従来の委員会の考えと現在も変わっておりません。様々な方法があるということは承知しておりますけれども、その中でも、科学的、技術的に見て、安全上問題があるとは思いませんし、もちろん我々は、処理水の放出についての実施計画について審査をして認可をする権限は与えられておりますけれども、先ほどからお話が出ております方法についての技術的な妥当性については、現在でも考えは変わりません。

○記者　それは、委員長、つまり、その海洋放出によって起こり得る様々なリスクに対して原子力規制委員会も責任を負うのだというふうにおっしゃっているという理解でよろしいのでしょうか。

○山中委員長　もちろん科学的、技術的に見て、安全上極めて問題の少ない方法であると我々が認めたということでございますので、当然、技術的に何か問題が起これば私ど

もの責任だというふうには思っておりますけど。
○記者　ありがとうございます。

○司会　ほかに御質問いかがでしょうか。
よろしいでしょうか。
ハシグチさん、では2度目ということで、ほかの方はよろしいですか。
ハシグチさん、お願いします。
○記者　すみません、NHKのハシグチです。
ちょっと今日の議題1の関係なのですけれども、関西電力が区分変更ということで、LCO（運転上の制限）の累積による区分変更は初めてだと思うので、この辺りの所感についてお願いいたします。
○山中委員長　運転上の制限の逸脱、これが年間4回起こったということで、検査区分を緑から白に変更したと、つまり、規制機関の関与が一定程度必要であるという、そういう判断に至ったということでございます。これについては、事業者が提案をした運転上の制限、これに基づいて、約束事として、三つ以下ならば緑、自主的に改善ができる範囲、四つ以上であれば白ということを約束して、新しい検査制度を運用しておりますので、まずは、初めての経験ではございますけれども、追加検査を実施するという、そういうことになったということでございます。これは新しい検査制度の一つの成果であり、高浜原子力発電所の組織文化の劣化の兆候、これをきちんと見ることができるようになったという点においては一つの成果かなというふうに思っております。
○記者　高浜原発、この数年ですよね。軽微だとはいえ、ちょっとトラブルが何か多いなと思うのですけど、その辺りについては、どういう背景とか、なぜなのかというのは、委員長として今の時点ではありますか。
○山中委員長　これは、委員会の中でも私コメントさせていただきましたけれども、指摘事項等も、高浜原子力発電所全体を見て、非常に多いというふうに感じておりますし、また労働災害についても多く発生をしております。何らかの組織上の問題があるのではないかというふうに推測しますし、まずは11月末の報告書を待って、追加検査に入って、その結果を見て、委員会で議論をしていきたいというふうに思っています。
○記者　関西電力は全国で最多の原発を今動かしていると思うのですけど、その事業者が第2区分で、要は問題のある組織文化、もしかしたらということでしたけども、そういう状況で最多の原発を運転しているということについては、どういうことを求めていきたいですか。
○山中委員長　高浜原子力発電所について、指摘事項が多い、あるいは、今回のようにLCOが年間4件出たということは、やはりもう一度、原子力安全についてきちんと見直して、今回の件について総合的な原因究明をしていただきたいと思いますし、当然、

現在も原子力発電所を運転しているわけですから、慎重に運転を続けていってほしいというふうに思っております。

○記者　最後1点、今日の委員会の中で、委員から、LCOの設定自体も考えるべきだというような意見もありましたけども、これは今後どういうふうに扱えばいいのでしょうか。

○山中委員長　これは数年前から、LCOの設定については、様々な改善というのはできるのではないかということで、事業者全体に対して改善を求めているところでございます。今回のケースを見ていただいても、少し厳し過ぎるような設定の項目もあれば、妥当な設定の項目もございますので、その辺り、全体を通じて、リスクに応じたLCOの設定というのを今後考えていってほしいなと、これは事業者自身が考えることだというふうに思っています。

○記者　ありがとうございました。

○司会　ほかによろしいでしょうか。

それでは、本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

－了－